

慰霊の日が過ぎて梅雨明けとなり、すっかり沖縄の夏の陽気となってきました。エアコンがフル稼働となる時期を迎え、今年は電気代の高騰に頭を悩ませることになりそうです。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられ、社会はコロナ前の活気を取り戻しつつあります。一方、病院や老健施設に目を向けると、入院や入所におけるコロナ陽性者は断続的に発生しており、施設によっては院内クラスターで、もうすでに第9波ともいうべき程のコロナ対応を余儀なくされているところもあります。コロナに対する社会の中での認識と病院の中で起きている現実とのギャップはまだしばらく埋まりそうにありません。

7月号の表紙は、仁和寺の巖かで貴重なワンシーンを収めた長嶺先生の写真が飾ります。

第15回沖縄県医師会研修医歓迎レセプションでは今年4月から県内の初期臨床研修病院で1年目の研修をスタートさせる研修医全員を迎え、その指導医、医師会、沖縄県の関係者らが一同に会してシンポジウムや交流会が行われたとの報告がありました。感染予防対策の意味から、お弁当で黙食、アルコールはなしとコミュニケーションを取るにはなかなか難しい状況下ではありましたが、ここ数年コロナ禍でほとんどこのような交流会ができなかったことを考えると、研修医たちにとって十分意味のある会になったのではないかと思います。

日本医師会会長 松本吉郎先生の「中央情勢報告」講演会では、次年度の診療報酬改定も踏まえ、今後、国がどのような方向に舵を切ろうとしているのか、またそれに対して日本医師会としてどのように取り組んでいくのか、という内容のお話がありました。大変ボリュームのある内容でもう少し時間が欲しかったというのが正直な感想です。

生涯教育コーナー「腎代替療法の最近の動向」では、慢性腎不全の3つの治療（血液透析、腹膜透析、腎移植）の解説、CKM やSDM といった新たな取り組みのほか、チーム医療として取り組むこれからの話題などについてもわかりやすく述べられています。

その他、種々のお知らせ事項も是非ご一読ください。

この沖縄県医師会報はコロナ禍の間しばらく行われていた2か月の合併号から、毎月発行に戻りました。様々な医師会関連の行事、会議、講演会なども徐々に活性化してくると思います。多くの会員の皆様に記事の執筆、投稿をお願いすることがあると思いますが、今後ともご理解とご協力の程をよろしく願いいたします。

広報委員 藏下 要